

## 3年かけて通し解説

知れば知るほどおもしろい!  
古典芸能を‘偏愛’する二人のトーク&レクチャー  
おしゃべり古典サロン

# 仮名手本 忠臣蔵

かなでほん  
ちゅうしんぐら

2017年から始まった「おしゃべり古典サロン」も五年目に入りました。

五年目企画としまして、今年から三年間かけて、古典作品の最高傑作であり、  
独参湯とも言われる『仮名手本忠臣蔵』をテーマにおしゃべりをしたいと思います。

ご存知、赤穂浪士の討ち入りを題材にしたこの作品は、実際の事件を扱いつつも、  
「忠臣蔵」という名が事件の代名詞となるほどのインパクトをもたらした物語です。

作者たちの巧みな発想力によって紡ぎ出された本作の大序から十一段目を順におしゃべりしていきます。

※vol.9、vol.10それぞれ単独のご受講でもお楽しみいただけます。

### vol.9 大序～三段目

同時代に実際に起きた赤穂事件をそのまま上演することができな  
かった江戸時代、作者たちは舞台を南北朝時代に設定し、『太平記』の  
世界を借りました。大序は鶴ヶ丘八幡宮において塩冶判官の妻・顔世  
御前が敵将・新田義貞の兜改めをする場。ここに同座する鎌倉執事の  
高師直と桃井若狭之助が対立。さらに師直が顔世御前に横恋慕する  
ことから事件の発端が描かれます。二段目は師直へ憤る若狭之助に  
家老の加古川本蔵が師直を斬るよう勧めます。三段目では足利館  
門前で本蔵が師直に進物を渡し、その後、師直から散々悪口を浴びせ  
られた塩冶判官が師直に刀を抜き……

2022年9月19日(月・祝)

14:00～16:00(途中休憩あり) ※13:15受付開始/13:30開場

フレンテみえ 多目的ホール

今後の予定

2023年

vol.11 五段目～六段目

vol.12 七段目

2024年

vol.13 八段目～九段目

vol.14 十段目～十一段目

主催：三重県文化会館[指定管理者：公益財団法人三重県文化振興事業団] 共催：三重県生涯学習センター

講師



木ノ下裕一  
木ノ下歌舞伎主宰



田中綾乃  
三重大学人文学部准教授

撮影：渡邊肇

### vol.10 三段目～四段目

塩冶判官の家来・早野勘平と顔世御前の腰元おかるが逢瀬を重ねる  
中、館では塩冶判官の刃傷事件が起きます。二人が駆けつけた時には、  
門は閉ざされ、中に入ることができません。色に耽った勘平は切腹し  
ようとしませんが、おかるがこれを止め、ひとまず二人はこの場を立ち  
退きます。四段目は判官切腹の場。判官の子息・力弥が家老・大星由良  
之助の到着を待つ中、判官は切腹しますが、そこへ国許から由良之助  
が到着。由良之助は、判官最期の姿から主君の無念の想いを引き受け  
ます。主君を失った家臣たちは浪人となって、それぞれ城から出て行  
き、由良之助も判官の遺言を胸に誓いながら、城を明け渡します。

2022年11月13日(日)

14:00～16:00(途中休憩あり) ※13:15受付開始/13:30開場

三重県文化会館 小ホール